

# 前現代（の）都市・建築遺産（の）計画学的検討

## 【若手奨励】特別研究委員会

主査：中島直人

### 研究委員会の設置目的

遺産としての価値が未確定である「戦後、1970年頃までに生み出された都市・建築空間」の遺産的価値およびその保全・活用計画の検討を行う。

#### 「前現代」

・遺産学・計画学的簡単から現代・現在、未来との関係を意識し、対象とする時代を「前現代(pre-contemporary)」期と捉える視点を設定する。

#### 「都市・建築遺産」

・この時期の都市化状況を踏まえて、建築単体に留まらず、街路、広場、建築群などを含む都市空間を対象とする。

#### 「計画学的検討」

・この時期の建築・都市空間の歴史的価値の同定に留まらずに、その保全・活用についても検討する。

### メンバー構成

中島直人	慶應義塾大学／主査
初田香成	東京大学／幹事
石樽督和	明治大学
市川堯之	東京大学
北垣亮馬	東京大学
倉方俊輔	大阪市立大学
小山雄資	鹿児島大学
高岡伸一	大阪市立大学／高岡伸一建築設計事務所
田中傑	東京理科大学
中島伸	練馬まちづくりセンター／東京大学
中野茂夫	島根大学
西成典久	香川大学
藤岡泰寛	横浜国立大学
村上しほり	神戸大学

## メンバー構成

近代建築史・都市史（5） 都市計画史・都市保全計画（4）  
建築計画（2） 建築デザイン（1） 住宅政策（1） 建築構造・材料（1）

## 研究活動の記録（設置期間：2011年4月～2013年3月）

### ・連続研究会

※2011年度、2012年度の二年にわたり、計7回の研究会

※毎回二名ずつ、本研究委員会のテーマに関係する研究成果を発表し、議論。

### ・研究中間報告と公開ディスカッション

※建築学会大会でのパネルディスカッション（2012年9月13日）

テーマ「前現代の都市・建築 遺産としての可能性を問う」

パネリスト 委員 初田香成・高岡伸一

委員外 伊達美徳（まちプランナー）・鈴木伸子（ライター）

コメンテーター 委員 北垣亮馬

委員外 青井哲人（明治大学）・中尾俊幸（株式会社R I A）

参加者：約50名 資料集：完売

## パネルディスカッション (2012年9月) の討論概要

### (1) 「継承」という見方

前現代の建築は、有名な作品だから残すという対象ではない。保存／新築の対立ではなく、建築の空間的原理が継承されることに価値を見出すことはできるか。たとえば下駄履き住宅の空間的な型は町家そのものである。戦後ビルの暮らし方研究を通じて、活用の検討にもリアリティが出る。

### (2) 「状況」という見方

共同建築は都市空間に影響を及ぼす。社会現象でもあるが、必ずしも高邁な思想の下で実現したわけではない。制度や融資が後押しした面もあれば商売人の算盤勘定による面もある。継承の原理は意思よりも状況にもとづくものかもしれない。



### (3) 「評価システム」という見方

現代とは異なる価値をどう維持し魅せるか。当時の建材は希少性をもつものも少なくない。現在同じように施工すると想定して費用を見積もれば街は宝の山に見える。古い材料に親しみを感じる人々も多く、建築材料の専門的な視点が実は市民の幅広い関心を喚起するのではないか。

## 最終報告の内容

### 1) 都市・建築遺産の発掘

- ・ 現在は特に地方都市の発掘を中心に、多様性を再発見している段階 (→いずれは特質の解明へ)
- ・ 現状ではひとまず個別事例の研究を重ね、様々な遺産を拾い上げつつ、それらの特質を議論していくことが大事である。



ニュー新橋ビル (港区、1971年)

池袋東口民衆駅 (豊島区、1960年)

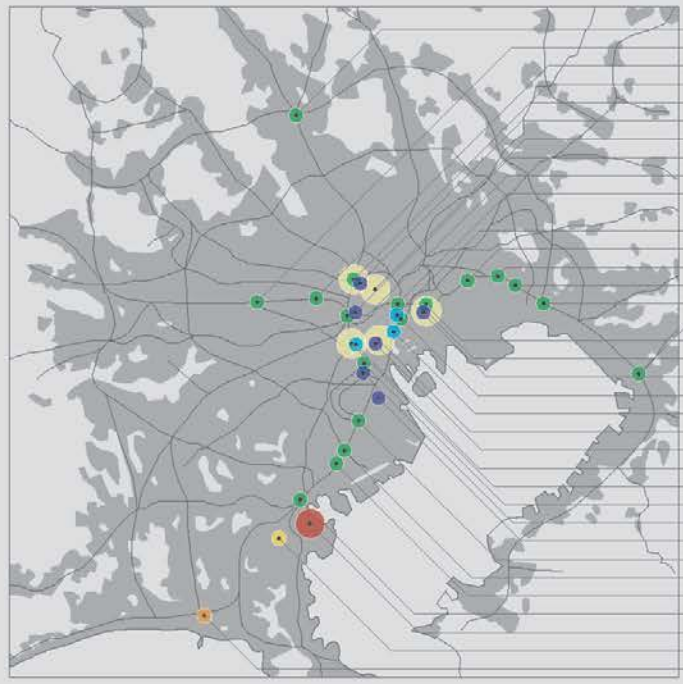
元町駅高架通商店街 (神戸市、ヤミ市起源)

藤沢391街区 (藤沢市、1966-71年)

松江官庁街 (松江市、1965年~)

滝野川谷端組合地区桜並木 (北区、戦災復興)

本報告書の対象



- 大宮民衆駅
- 吉祥寺民衆駅 (高架)
- 高円寺民衆駅
- 池袋西口・東口民衆駅
- 東京池袋東区西側整理事業：池袋駅付近 (第10地区)
- 社会広場：池袋東口 (第10地区)
- 東京池袋東区西側整理事業：文壇大付近 (第3地区)
- 社会広場：歌舞伎町 (新宿組合)
- 新宿東口民衆駅
- 秋葉原民衆駅
- 大手町ビル・新大手町ビル・三井生命ビル・ていはいく / 郵便組合博物館、etc
- 小岩民衆駅 (高架)
- 市川民衆駅 (高架)
- 本八幡民衆駅 (高架)
- 船橋民衆駅 (高架)
- 千歳民衆駅
- 錦糸町民衆駅
- 東京池袋東区西側整理事業：錦糸町駅南側 (第4地区)
- 社会広場：錦糸町 (第4地区)
- 筑波会館：東京駅八重洲口民衆駅
- ニュー新橋ビル
- 東京池袋東区西側整理事業：麻布十番付近 (第1地区)
- 社会広場：麻布十番 (第1地区)
- 専念文化会館
- 東京池袋東区西側整理事業：池袋駅付近 (第6地区)
- 目黒民衆駅
- 社会広場：五反田 (第5地区)
- 社会広場：大森 (第6地区)
- 蒲田東口・西口民衆駅
- 川崎民衆駅
- 鶴見東口民衆駅
- 横濱西口民衆駅
- 横浜南内地区の防火建築帯
- 南永田環地
- 横浜駅南地区第一防火建築帯

- 松江市の官庁街【島根県庁及びその周辺】
- 松江民衆駅
  - 米子住宅協会
  - 西條住宅協会
  - 広島民衆駅
  - 松江住宅協会
  - 徳山民衆駅
  - 防府市住宅協会
  - 山口市住宅協会
  - 小郡町住宅協会
  - 戸畑民衆駅
  - 博多民衆駅
  - 八幡民衆駅
  - 小倉民衆駅
  - 門司民衆駅
  - 藤井市住宅協会
  - 熊本市住宅協会
  - 別府民衆駅
  - 徳島市住宅協会
  - 鹿児島市の店舗付賃貸共同住宅  
[春林寺町地・洲崎町地・鹿児島駅前町地]
  - 鹿児島民衆駅
  - 宇和島住宅協会

- 瀬川民衆駅
- 札幌民衆駅
- 沼田民衆駅
- 沼田民衆駅
- 大塚市住宅協会
- 秋田民衆駅
- 若手地方住宅協会
- 盛岡民衆駅
- 釜石住宅協会
- 金沢民衆駅
- 小松市公会堂
- 高岡民衆駅
- 富山民衆駅
- 魚津市防火建築帯
- 福井民衆駅
- 新潟民衆駅
- 長岡住宅協会
- ホテル山山・草堂ターミナル
- 山形民衆駅
- 福島民衆駅
- 宇都宮民衆駅
- 日立市住宅公社
- 水戸民衆駅
- 八王子市住宅協会
- 川崎市耐火建築助成公社
- 横浜青住住宅公社
- 横浜駅前第一防火建築帯
- 沼津民衆駅
- 高津市防火建築帯
- 静岡大火復興・防災建築帯
- 大田市住宅協会
- 岐阜民衆駅
- 一宮市住宅公社
- 原第一宮民衆駅
- 四日市市開発公社
- 新藤市民体育センター (旧藤都市体育館)
- 接路民衆駅
- 神戸市高架下店舗群
- 四日市民衆駅
- 新都市住宅協会
- 豊根民衆駅
- 津民衆駅
- 豊岡市住宅協会
- 豊中市住宅協会
- 布津開発公社
- 奈良市住宅協会
- 大阪の前現代建築【大阪朝日生命館・丹平ビル・本町ビルディング、etc】
- 味岡ビル
- 天王寺民衆駅
- 八尾市住宅協会
- 堺市住宅協会
- 明石民衆駅
- 明石市住宅協会
- 和歌山民衆駅
- 赤穂市住宅協会
- 岡山市建設公社
- 玉島市住宅公社
- 丸亀市住宅協会
- 新居浜市住宅協会

それぞれの事業者が対象とした事例を次の色で示した = 中島組人：●/朝田：●/石橋：●/金方：●/小山：●/高岡：●/中島伸：●/中野：●/西成：●/藤岡：●/村上：●

⇒「前現代」の都市・建築の特質に関する議論

■特定の時代としての「前現代」：戦後～1970年頃の都市・建築

復興に伴う圧倒的な「量」

－都市への大量の人口流入と高度経済成長という背景

⇒個々の復興・成長のエネルギーが工業化・制度化に収斂していく過程

しかし、あくまで工業化・制度化の「前夜」

－例：中途の機械化、本格工業化の前段階における「手の跡」が残る意匠

－例：土地税制・評価の未確立という状況下での街区設計の創意工夫の余地

－例：ディベロッパ―登場前の内発的共同化としての再開発

■普遍的課題としての「前現代」：近過去の都市・建築

連続性の恢復

都市・建築における「時間」の分節的理解から連続的理解への階梯

選択肢（オルタナティブ）と可能性

現在までの連続性に加えて、廃れてしまったものの中に存在する可能性への視座（特に地方における、各地の状況や技術に根付いた多様な試み）

## 最終報告の内容

### 2) 計画的「継承」に向けての試論

#### ■ 存在価値の認識

従来のな（文化財的）保存・保全の対象の拡張・充実へ

- －すでに50年以上経過・・・重要文化財、登録文化財、名勝
  - ・・・個々の建築物、公共空間
- －点・線から面的整備への展開・・・伝統的建造物群保存地区、文化的景観
  - ・・・群としての建築物、インフラ+建築物

#### ■ 使用価値の再提起

- －しかし、従来の選良主義（存在価値に対応）では対応できない課題
  - ・圧倒的な物量、ストック社会の到来
  - ・都市における歴史・記憶の意義・効用の日常化（「つくる」時代からの移行）

存在価値に過度に依拠しないストック・マネジメントの実装へ

- ・「空間的リノベーション（コンバージョン）」
- ・「持続的再生」・・・一度きりの開発・事業ではなく、持続的に再生の力を自ら蓄える仕組み・仕掛けの装備

⇒我が国（後進非西欧諸国）の近代都市の「成熟」の具体的な方法論・空間論へ

## 今後の展開・展望

### 2013 整理のための1年

---

#### ○価値論の確立

- －個別事例の研究の蓄積とその整理（土木・造園等の他分野との連携も）
- －近代都市史とのより密な接続による歴史的定置

#### ○情報発信と連携

- －特別研究委員会の成果の公表（書籍の出版）
- －国内・国際的ネットワークの準備・設立

#### ○具体的な施策・事業への関与・推進

- －個々の物件でのプロジェクトの立ち上げ
- －制度論的検討と具体的施策への反映

### 2014 次なる展開

---

#### ○我が国（後進非西欧諸国）の近代都市の「成熟」の具体的な方法論・空間論へ

- －建築学会内での「前現代都市・建築に関する特別研究委員会」の設置提案